

16 健康教育

I 本県が目指す健康教育の授業

生涯を通じて健康、安全、食について活力ある生活を送るための基礎を培う健康教育

学校における健康教育とは

- 「学校保健」「学校安全」及び「食に関する指導（学校給食を含む）」を包括したものであり、それらが相互に関連し、管理と一体となって進められるものです。そのため学校の教育活動全体を通して、学校がチームとして取り組むことでねらいの達成に向かっていきます。
- 児童生徒の発達段階を考慮し、学校の教育活動全体を通して適切に行うことや、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めます。
- 学校における健康教育に関連した教科等での指導は、体育科(保健体育科)、家庭科(技術・家庭科)及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間等で行います。

生命（いのち）の安全教育

性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにするために、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考える考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を、発達段階に応じて身に付けることを目指します。

II 教材研究の充実 【生命（いのち）の安全教育】

各段階における指導内容

	年齢	幼児期			小学校						中学校			高校			大学		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
指導内容	自他の尊重 (自分と相手の心・身体の尊重)																		
	水着で隠れる部分																		
	SNSの危険性																		
	性暴力について																		
	デートDV																		
	JKビジネス																		
	セクシャルハラスメント																		
	レイプドラッグ 酔前に乗じた性暴力																		
	AV出演強要																		

生命（いのち）の安全教育指導の手引き（文部科学省）

生命（いのち）の安全教育における教材研究のポイント

児童生徒の実態の把握

友達や教師との関わり等、学校での生活の様子や学習の様子、家庭環境、事前アンケート等から、児童生徒のよさや課題を把握する。

集団指導と個別指導の連携

養護教諭やスクールカウンセラー等と共通理解を図り、個別指導と集団指導を意図的・計画的に取り入れる。個別の児童生徒や任意の小集団を対象として充実のための補完的な学習、学習内容の習熟の程度に応じた発展的な学習等、取り入れるようにする。

事後指導の充実

話し合い活動で共有された考えをもとに意思決定し、定期的に自己を振り返る場を設定する。

- 例)
- アンケート等で、人間関係での困り感や嫌な気持ちになった出来事について情報を集める。
 - 養護教諭や学年担当職員等と気になる児童生徒の情報を共有する。

- 各家庭環境の状況把握や事前のアンケート結果を基に、児童生徒が被害者となる仮想事例を設定し、その対応等を事前に検討しておく。
- 授業中又は授業後に「心配なことがあったらいつでも相談に来てね。」と伝え、集団指導と個別指導を意図的につなげる。














- 振り返りは学習カードやデータ等で蓄積し、健康教育における成長について、自己評価できるようにする。また、帰りの会・人権月間・学期末等、継続的に振り返る場を位置付ける。

Ⅲ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

【学 年】小学校1～2学年【題材名】「たいせつなからだ」(学級活動全1時間) + 事前・事後の活動
 【題材の評価規準】学級活動 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方をも身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法等について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組む、他者と仲良くしてよりよい人間関係を形成しようとしている。

【主な学習活動と評価計画】 (☆…「評定に用いる評価」, ♡…「学習改善につなげる評価」)

時	○学習活動  児童の意識 ( ICT の活用例)	評価の観点			評価方法	授業改善の視点 取組の具体例
		知	思	態		
事前指導	<p>【ねらい】 事前アンケートや養護教諭との情報共有から、課題を洗い出し、児童の実態と目標や願う姿とを照らし合わせながら学習問題を設定し、課題解決への見通しをもつ。</p> <p>○アンケートを実施し、結果を共有する。  人に触られたりたたかれたりして、嫌な気持ちになったことがあるよ。  プールの着替えのときにタオルで隠さないで着替えるのはダメなの？</p>				♡	<p>学級全体と個の実態の把握 アンケートを行い、子供のよさや課題意識を把握します。集計結果を共有し、思いやる気持ちや嫌な気持ちに共感し、気持ちには個人差や違いがあることに気付くことで、体を大切にすることについて課題意識をもてるようにします。</p>
	<p>学習問題：じぶんやともだちのからだをたいせつにするにはどうしたらいいのかな？</p>					
学級活動	<p>【ねらい】 自分や他人の体の大切さに気付き、これからの生活を送るときに大切にしていきたいことを決める。</p> <p>○学習カードの人型イラストに、触られたら嫌な気持ちになる場所にシールをはる。  胸やおしりは、触られたら嫌な気持ちになるよ。 ○シールを貼った場所を共有する。  裸を見せられることが嫌だと思ってる人がいるんだね。  お尻とか胸が多いけど、頭とか肩にもシールが貼ってあるね。 ○養護教諭等の話を聞く。  もしも嫌な気持ちになったときは、嫌って言っていいんだね。 ○振り返りカードに記入する。  嫌なことをされたら、自分の言葉で自分の気持ちを伝えられるようにしたいな。</p>	☆♡	☆♡			<p>視覚的・具体的な支援を用いての活動 黒板に大きな人型イラストを掲示してシールを貼った所を全員で共有し、貼った所の共通点や相違点から自他の考えの違いに気付けるようにします。</p> <p>チーム・ティーチングによる連携  授業が受けられない児童は、養護教諭やスクールカウンセラー等と別室やオンラインで授業を受けるようにする等配慮します。 専門的な立場から、プライベートゾーンや、具体的な対処方法等について、話し合いの中の共通点・相違点、キーワード等と関連付けて助言します。</p> <p>☆話し合いの発言や学習カードの記述から、お互いの考え等を参考に意思決定をしているか評価する。</p>
	<p>【ねらい】 意思決定したことについて、実践したことを振り返る。</p> <p>○決めたことを実践する。  定期的に、振り返りを入力する。  嫌な気持ちになったとき、「嫌だよ」と、言葉で伝えられるようになってきたよ。</p>				☆♡	<p>実践と自己評価及び事後支援 個別指導に関わる情報を担任・養護教諭・スクールカウンセラー等で共有し、事後の支援につなげます。</p> <p>☆  健康診断後・学期末等、振り返り場面を設定し、記述から意思決定したことを実践している姿を評価する。</p>
事後指導						